

－転移性乳がんに対する HRQOL スコアと予後との探索的解析－

臨床試験の事後解析で様々な質問票を用いた QOL データが生存の独立した予後因子であることが報告されている。

システマティックレビューを含め様々なエビデンスから、ベースライン HRQOL スコアが癌患者の生存予測を改善する事が報告されている (1)。乳がん患者においてはベースラインの QOL が進行乳がんの予後を予測し、身体的な健康、痛み、食欲不振などの QOL データが進行乳がん患者の生存の重要な予後因子であったと報告されている。また、ベースラインの身体的な健康とその変化が生存と関連していたとの報告もある)。しかしこれまで日本人進行再発乳癌患者を対象とした EORTC QLQ-C30 や EQ-5D を用いた検討はなされていない。

【目的】

本抄読会では SELECT BC 試験のデータを 2 次利用し、タキサンまたは S-1 治療を受ける進行・再発乳がん患者を対象に(1)人口統計学的、臨床的因子に加え、EORTC QLQ-C30 と EQ-5D-3L を使用し継時的に測定された HRQOL のデータのうち、ベースラインスコアを用い、予後予測における追加的な意義について Cox 比例ハザードモデル、C 統計量、cNRI、IDI を用いて探索した(2)またその際、QOL のサブスケールとサマリースコアの比較も合わせて行った結果について紹介する

【参考文献】

1. Montazeri A. Quality of life data as prognostic indicators of survival in cancer patients: an overview of the literature from 1982 to 2008. Health Qual Life Outcomes. 2009 ;7:102.